

健康基軸の最新研究

オンラインフォーラムに国内外2800人

【弘大COIネクスト】参画企業など紹介

弘前大学と県、弘前市が主催する「弘前大学COI NEXT Wellbeingイノベーションフォーラム2025」が12日、東京都内とオンラインで同時開催された。国内外の約2800人が聴講する中、研究者や参画企業の担当者らが健康を基軸とした経済循環モデル、全世代にアプローチするヘルスケア産業の創出や戦略、最新の研究内容を紹介した。

弘前大COIネクストの村下公一拠点長(副学長・教授、グローバルWellbeing総合研究所副所長)は「グローバルWellbeing(ウエルビーイング)心身、社会的に健やかで幸せな状態」共創社会の実現」と題して基調講演。岩木健康増進プロジェクト(岩木健診)の超多項目健康ビッグデータを基盤に創出された研究成果、社会実装の事例を挙げながら、産学官民金が連携した強固な

地域共創体制、ネットワークを構築してきたことを紹介。「地域中核・特色ある

研究大学強化促進事業(「JPEAKS」とCOIネクストを両輪に、「異分野が融合した総合知を促進し、地域共創社会の実現と世界発信を加速させる」とした。



パネルディスカッションでは、COIネクストの参画企業担当者(国内外の約2800人が聴講したフォーラム(弘前大学提供))

と村下拠点長、中略重之弘大特別顧問ら15人が登壇。QOL(生活の質)健診を基軸としたウエルビーイングなまちづくりのモデルでは「さまざまなシチュエーションに合わせて柔軟に展開」「海外拠点を持つ参画

企業が協力し拡大する」などの意見が出された。村下拠点長は「QOL健診などのツールを発展させるとともに、産学官民金が連携したまちづくりをさらに強く進めていきたい」と述べた。(稲葉智絵)